

# Children's School Health Issues from the Perspective of Students Aspiring to Be Teachers: A Sociological Approach

WATANABE Kanae

## Abstract

This study used newspaper articles to examine current school health issues among junior high and high school students. By creating portfolios, the background factors contributing to the increasing complexity and diversity of these issues were explored. From the portfolios created by the students, we extracted the school health issues that they considered the most significant among current junior high and high school students. We then verified the data by counting the numbers of individual issues raised and of combinations of highly related issues. The verification results indicated that prolonged gaming, smartphone use, and Internet activity were the most significant school health issues for children. These activities lead to sleep disorders, such as insufficient sleep, which cause difficulty in waking up in the morning, resulting in tardiness, absence, and truancy. They are also presumed to cause stress and depression. Dependence on games and similar activities is recognized by the World Health Organization as an addiction that requires treatment by specialists or at specialized facilities. Recovery is difficult if relied solely on the individual's willpower, family support, or school intervention. For children in a state of addiction to games and so on, which leads to social problems such as school refusal, school personnel and families must fully recognize this as a health sociology issue. A system needs to be established to connect these children with specialists and specialized facilities.



# 教員を目指す学生が考える 子どもの学校保健上の問題への健康社会 学的な視点からのアプローチ

渡 部 かなえ

## 1. 緒言

学校保健は、子どもたちが生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指し、学習指導要領に基づいて、体育科・保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じた体系的な保健教育を充実するとともに、複雑化・多様化する子どもたちの現代的な健康課題に対応するため、養護教諭・学級担任・学校医等が行う健康相談および保健指導、保健管理、保健組織活動等の取組を推進するものであるが<sup>1)</sup>、今の子どもたちの学校保健上の健康問題は、複雑化・多様化した社会の影響を受けており、学校の中だけで解決することは困難である。

本研究は、中学校・高等学校の保健体育の教員免許を取得して、将来、子どもたちの健康教育に携わることを目指している大学生に、複雑化・多様化した社会が今、子どもたちに及ぼしている学校保健上の問題について、健康社会学の視点をもって探究させることを目的として行った。

## 2. 方法

将来、中学・高校の保健体育科の教員免許を取得して子どもたちの健康

の維持増進の支援や教育に携わることを希望している教員免許科目「学校保健」の受講学生に、今の中学生・高校生の学校保健と学校安全上の問題を、新聞記事をエビデンスとして取り上げさせ、複雑化・多様化の背景要因をポートフォリオの作成を通して探究させた。

提出されたポートフォリオから、学生たちが重視した今の中学生・高校生の学校保健と学校安全上の問題を抽出し、取り上げられた個々の問題の数および関連性が高い問題の組み合わせの数をデータとして検証を行った。

なお、中学校・高等学校保健体育科の教員免許の必修科目である学校保健の根拠となる法律は2009年に「学校保健法」から「学校保健安全法」に改訂されており、学習内容も「学校保健」と「学校安全」の両方を含む包括的な内容であるが、文部科学省が定めている中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の授業科目名は「学校保健」となっている<sup>2)</sup>。

### 3. 結果

履修学生 107 名中、今の子どもの学校保健上の健康問題について2つ以上指摘した学生は 81 名、1つだけ指摘した学生は 14 名であった。また、2つ以上の学校安全上の問題を指摘した学生は 76 名、1つだけ指摘した学生は 20 名であった。

今の子どもたちの健康問題として個別に最も多く指摘されたのは、ゲーム・スマホ・ネットを長時間にわたってやっていることで、回答数 34 と 4 割近くが問題視していた。次に多かったのが近視などの視力低下で、回答数 25 と約 3 割が指摘していた。不登校や不適切なダイエットによる痩せ、睡眠不足などの睡眠障害、運動不足による体力低下や虚弱化も、回答数が 10 を超えていた。(表 1)

指摘が多かった健康問題の関係性を見ると(表 2)、長時間のゲー

表1 子どもの健康問題・単独

学生が取り上げた個々の健康問題	回答数
長時間のゲーム・スマホ・ネット	34
近視をはじめとする視力低下	25
不登校	16
不適切なダイエットによる痩せ	14
睡眠不足などの睡眠障害	13
運動不足・体力低下・骨や筋肉が弱くなっている	12
肥満	10
ストレスやうつなど心の健康問題	10
熱中症	10
いじめ	9
自殺	7
コロナなどの感染症	7
学校健診未受診による病気の見逃し	4

ム・スマホ・ネットが、多くの健康問題と関連していると把握されていた。視力低下、睡眠不足などの身体の健康問題にも、不登校やストレスやうつなどの心の健康問題にも、ゲーム・スマホ・ネットなどが影響していると考えられていた。また不登校という心の健康問題は、学校での健康診断が受診できないので、身体に健康問題の早期発見・早期対応ができないため、身体の健康も損なってしまうことが懸念されていた。

学校安全上の問題点としては（表3）、不審者への危惧が、通学路の交通安全・交通事故と並んで最も多かった。また、学校の校舎や施設の老朽化によって壁が落下したり窓枠が外れたりして発生した事故や、グラウンドに釘が埋まっていてそれでケガをしたり、ゴールポストが固定不良で強風で倒れて下敷きになるなど、整備不良によって引き起こされた事故やケガを問題視した学生も20名と多かった。地震や津波、洪水被害の爪痕も深

表2 子どもの健康問題・複合

指摘が多かった子どもの健康問題	関連する健康問題の項目	回答数
長時間のゲーム・スマホ・ネット	視力低下	30
	不登校	
	睡眠不足などの睡眠障害	
	ストレスやうつなど心の健康問題	
不登校	長時間のゲーム・スマホ・ネット	9
	学校健診未受診による病気の見逃し	
いじめ	自殺	6
	ストレスやうつなど心の健康問題	
ストレスやうつなど心の健康問題	長時間のゲーム・スマホ・ネット	6
	いじめ	

表3 学校安全上の問題・単独

学生が取り上げた個々の学校安全上の問題	回答数
不審者	24
通学路の交通安全・交通事故	24
校内の危険箇所（老朽化、整備不良、ゴールポストの下敷きになる事故）	20
防災・災害避難	17
熱中症	16
通学路の危険箇所（ブロック塀の倒壊など）	10
授業中の事故（水泳の飛び込みで頸椎損傷、溺水、やけど、指切断など）	9
いじめ	9
教師による盗撮、性暴力	7
教師による不適切な指導（暴言、体罰など）	5

く、4番目に多くの学生が問題点としてあげていた。季節柄（調査は7月）熱中症に関心を持った学生も16名と多かったが、特に引率保育士の不注意で子どもの人数・安否確認を怠ったため、園バスの中に置き去りにされて亡くなった園児のニュースが学生の印象に強く残っているようだった。校内だけでなく通学路にも倒壊しやすいブロック塀や地面の陥没などの危険個所があることを心配した学生も10名おり、交通安全・交通事故への懸念と併せると、通学（登下校）時の安全への懸念が34と最も多くなった。なお、教師による生徒への性被害（盗撮や性暴力）と教師の暴言や体罰など、教師が子どもの安全を脅かしているという問題への懸念も合計12名の学生が重視していた。

#### 4. 考察

健康問題では、単独でも、他の健康問題との関連でも、長時間のゲーム・スマホ・ネットが、最も大きな子どもの学校保健上の問題として指摘されていた。長時間のゲーム・スマホ・ネットは、朝起きられない理由になり、遅刻や欠席、そして不登校につながってしまう睡眠不足などの睡眠障害や、ストレスやうつなどの原因になっていると推察される。今の子どもの健康問題は複雑化・多様化していると言われていたが、検証結果から、それら複合的な問題に共通する根本原因は、長時間のゲーム・スマホ・ネットで、この解決が急務と言える。

しかし、問題解決は簡単ではない。ゲームやネットを長時間止められず、勉強や仕事など社会生活にも支障をきたしてしまうのは依存症であり、2019年にWHO（世界保健機構）によってゲームなどへの依存が依存症として疾病認定された<sup>3)</sup>。依存症は、薬物依存であれアルコール依存であれ、専門医や専門施設での治療が必要で、本人の意志や家族、学校の対応

だけは治癒は困難である<sup>4)</sup>。不登校のような社会的な問題につながるゲーム等への依存症の状態にある子どもについては、学校保健上の問題だからと学校内で抱え込むのではなく、健康社会学上の問題であることを学校関係者や家族もしっかり認識して、専門医や専門施設につなぐ、という体制を確立する必要があるという結論を得た。

安全上の問題は、不審者や通学路の安全、校内整備など、子ども自身が気をつける・子どもに教育するだけでは限界があり、安全確保のためのしっかりした監視・管理体制を学校や地域が確立せねば防げないことが多かった。熱中症や教育（授業中）・保育中の事故は、教師が子どもを観て教育・保育ができていれば防げたことが多く、現状でそれができないほど教職が激務だったり教員数が足りないのであれば、教員や保育士の増員や職務の改善・軽減化を図る必要がある。一方で、教員による子どもの盗撮や子どもへの性暴力、暴言や体罰などの、子どもを守るべき教員が子どもの安全を脅かす危険な存在になっていることは、早急に対応しなければならない重大事案である。教員に絶対なつてはいけないような人物が教員になっている状況を改善するために、採用の際にメンタル・ヘルスのチェックをする、教員採用後も定期的に研修を行う、そして何より信頼できる優秀な人が教員を目指してくれるよう、教職をブラック職業にしない<sup>5)</sup>、そして志を持った心ある教員がゆとりを持って子どもたちと関わり教育を行うことができるように、教員の働き方改革の推進<sup>6)</sup>を政府の掛け声だけで終わらせずに実現していくべきであろう。

いじめは心の健康問題として学校保健で取り上げられただけでなく、自殺などに繋がる学校安全上の問題としても取り上げられていた。いじめについては法律も整備されて<sup>7)</sup>、子どもをいじめから守るために適切な対応なされるよう状況は改善されてきている。けれども、いじめは子ども間だけでなく、教員が関わってしまったり、教員間でいじめがおこなわれるな

ど、いじめ問題は色々な所でいろいろな形で発生し続けている。いじめ対策には、子どもだけでなく大人も対象にし、専門家による介入を制度化していくことも必要であろう。

## 5. 謝辞

この研究は JSPS 科研費 23K02319 の助成を受けてまとめることができました。

### 【参考文献】

1. 文部科学省、学校保健法等の一部を改正する法律の公布について（通知）、[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houan/kakutei/08040703/080617/004.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/08040703/080617/004.pdf)
2. 文部科学省、教員免許状取得に係る必要単位数等の概要 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/\\_icsFiles/afiedfile/2014/04/23/1347091\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/_icsFiles/afiedfile/2014/04/23/1347091_03.pdf)
3. World Health Organization, Gaming disorder, ICD-11, 2019年5月25日、<https://www.who.int/standards/classifications/frequently-asked-questions/gaming-disorder>、(2025年11月12日：閲覧)
4. World Health Organization, International Classification of Diseases (ICD-11), <https://icd.who.int/en/>、(2025年11月12日：閲覧)
5. 東京新聞、2025年4月21日、教員「働かせ放題」が変わらない法改正に4万7846人反対署名 国会で「給特法」改正案が審議中、(2025年11月14日：閲覧)、<https://www.tokyo-np.co.jp/article/400079>
6. 文部科学省、初等中等教育局教育職員政策課 働き方改革推進室、学校における働き方改革について、[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/hatarakikata/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/index.htm)、(2025年11月14日：閲覧)
7. 文部科学省、初等中等教育局児童生徒課、いじめの問題に対する施策、(2025年11月14日：閲覧)、[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1302904.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302904.htm)